

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4770500132
法人名	医療法人おもと会
事業所名	グループホーム さくら
所在地	沖縄県宜野湾市嘉数4-4-10 (電 話) 098-898-2880

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373-1(沖縄県総合福祉センター西棟4F)
訪問調査日	平成 20 年 3 月 21日

【情報提供票より】(H20年1月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 7 月 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費6000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4)利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 92 歳	最低 89 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大浜第一病院、浦添総合病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは住宅街の中に位置し、緑に囲まれ天気の良い日には離島が遠望できる静かな環境にある。管理者及びケアマネージャーは、階下にある小規模多機能型居宅介護施設と兼務しているため交流がしやすく、行事等共同で開催している。母体老健施設とタイアップした研修等諸活動が盛んである。独自の研究テーマを掲げたミーティングでは、介護サービスの質の向上を目指す取り組みが見られる。居室担当制を取り入れ、情報を職員間で共有し利用者がホーム内に閉じこもる事の無いよう安全面に配慮しつつ積極的に外出の機会をつくっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で確認された改善課題については広報紙の発行やガスレンジをIHヒーターに取り替えるなど改善に取り組んだ。また、実現はしていないものの風呂場からの非常口の設置やスプリンクラーの設置など予算化ができています。理念の文言の簡略化は手が付けられていないが、自らの言葉で解りやすく表現し、掲示されることを期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	例年は全職員で自己評価の作成に取り組んできたが、今年度は評価調査の資料が手元に届いてから提出までの期間が短かく、全職員で十分な話し合いを行う取り組みとはなっていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催する運営推進会議では、2ヶ月間の当ホームの取り組みや今後の予定などを報告している。委員からは、市や自治会など地域の予定が報告され、貴重な情報交換の場となっている。年間2回の防火訓練では、隣接する2つの自治会から消防団や住民の応援参加もある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会、誕生会、季節の行事など家族参加の行事が多く、それらの機会を利用して家族の声を積極的に聞いている。家族からの意見要望については、法人及び職員間で前向きな話し合いを行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市や隣接する2つの自治会に対して、ホームへ足を運んでもらえるよう行事案内や協力依頼を行っている。地域活動に参加する取り組みについては検討中である。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当グループホームが開設されて以来、関わってきた職員の思いを総集して4つの理念を作り上げている。理念の一つ一つの文章が長く、理念が第三者に伝わりにくいものとなっている。平成18年度の法改正に基づく「地域住民との交流の下で」の、理念の見直しはなされていない。	○	理念の見直しを行うと共に、現在掲示されている理念の一つ一つの文章を短く判りやすい理念として掲示し、家族及び訪問者や地域へ発信していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングでは、理念に基づき問題点を掘り下げて話し合いを行っている。また、本人・家族を支えるために何が必要かを理念に基づき職員間で話し合って行動している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する2つの自治会などへ、ホームへ気軽に足を運んでもらえるよう当グループホームの行事案内や協力依頼などを行っている。しかし、地域へ出かけて地域活動へ参加する活動については現在検討中である。	○	管理者は、ミニディサービスへの参加や公民館講座の介護教室の手伝いなど、認知症専門施設としての知識を地域へ役立てたいと強く希望している。当ホームのこれからの取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	例年は全職員で取り組んできたが、今年度は評価調査の資料が手元に届いてから提出までの期間が短かく、職員間で十分な話し合いの時間を確保できていない。前回の課題については、広報紙の発行やガスレンジをIHヒーターに切り替えるなど改善に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開かれる運営推進委員会では、2ヶ月間の当ホームの活動や今後の予定などを報告し、当ホームの行事案内を行っている。委員からは、市や地域の状況(予定)などの報告がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護事故報告を届け出るだけでなく、行事の案内状の持参など機会をとらえて市役所担当窓口に出し、担当者との情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態については、管理者・居室担当者を中心に家族との連絡を取り合っている。金銭管理については、家族会や面談の時に報告を行い、2千円を超える買い物の際は都度家族の了承を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、誕生会、季節の行事など家族が当ホームへ足を運ぶ機会は多く、それらの機会を利用して家族の声を聞いている。家族会での意見や要望については、法人及び職員間で前向きな話し合いを行っている。(ウォシュレットの希望など)	○	ホーム内部での前向きな努力は高く評価できる。今後は第三者の目と声をホーム内に取り入れられるよう、介護相談員や社協ボランティアなど介護サービスの質の向上のきっかけとして活用していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある場合は、運営推進会議や家族会の際に報告し、交代は三ヶ月かけて徐々に交代している。家族会では必ず新人職員が記録係として参加し、家族と馴染みの関係を築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外研修は年2回、法人内研修は年4回行われている。管理者は勤務表の調整を行うなど、できる限り多くの職員が参加できるよう配慮している。また、職員は独自の研究テーマを定めてミーティングで発表し、介護サービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会の管理者会議に参加し、情報交換をしている。また、新しくできるグループホームの職員研修を受け入れたり、当ホームの職員が他のホームの施設見学会や研修会に参加できるよう、管理者は勤務表の調整を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームへ入居を希望し待機状態にある高齢者には職員が自宅を訪問し、入居以前から本人及び家族と顔見知りの状態を築く努力をしている。入居後は、居室担当職員が利用者と馴染みの関係を作るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、居室担当者を中心に利用者と時間を共有しつつ本人のやりたい気持ちを見極め一緒に行動している。また職員は、利用者の感情がそのまま出せるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を中心に、全職員で利用者の声の引き出しを行っている。本人からの引き出しが困難な場合は、家族から聞き取りを行い、本人の立場に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、各々の利用者についての気付きを居室担当者に報告し、居室担当者は職員からの情報を確実に把握している。毎月末に行うミーティングで利用者の介護状況を報告し、介護計画に反映している。	○	本人・家族の意向の把握や、家族からの要望に対しての聞き取りは丁寧になされているが、介護計画書の本人及び家族の要望欄において本人や家族の意向を確認できる具体的な記載は見られない。家族等関係者から利用者に関する情報を収集し、本人の意向に結びつけるためのアセスメントを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで協議し、6ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。また、利用者の急な体調変化による場合は、職員間で話し合い、その後家族に報告し了解を得てからプランの変更を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望は出来る限り聞き入れ、本人の要望を介護の中心に据え母体と連携して支援を行っている。 (骨折後のリハビリ訓練として母体施設のリハビリ施設を利用するなど)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の搬送協力や医療機関への情報提供を行っている。利用者の多くは事業所の協力医が主治医となっており、通院や往診など必要かつ適切な医療を受けることができる。当協力医からは、適切な服薬管理のために薬剤師の訪問指導もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々の家族の要望に沿ってかかりつけ医と話し合い、対応の方法を確認している。	○	管理者の希望である看取り看護については、職員間で十分な討議を行い、母体施設や訪問看護事業所との関係を構築することが求められる。当ホームにおける看取り看護の実現を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カルテ等個人記録類は、事務室内の鍵付き戸棚に保管してある。入浴は1人の介助者が1人の利用者の入浴介助を行い、焦らず急がず入浴を楽しんでいる。トイレ誘導時は、本人の耳元でそっと声掛けをするなど言葉遣いについては常に互いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のその時の状態を重視し、できる限り本人のペースを守るよう努力している。現在タバコを吸う利用者はいないが、お酒など利用者ごとの健康状態を配慮しながら本人の嗜好に対する希望を聞いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の力量に合わせ、野菜の皮むき、もやしの髭取り、配膳など職員と共に楽しみながら準備している。職員も利用者と一緒に同じ食卓を囲んで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節やその日の天候に反応した入浴拒否が多く、現在は月・木、火・金、水・土、各々三名ずつと一応の決まりはあるが本人の希望で毎日の入浴や曜日変更も可能でシャワー浴やバスタブ浴の提供がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の平均年齢は92歳と高く、本人から要求が出ることは殆どない。全員食べることが好きなので主に食事の準備の協力を得るよう働きかけている。入居者同志で会話を楽しみながら、職員へ過去の経験を教え合いながら時間を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同一敷地内の公園への散歩やピクニック、母体施設等他施設へ将棋指しに出かける等、日勤者三名以上の時に、外出の機会を作っている。買い物やミニドライブでは1(利用者):1(職員)+1(職員)で外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個室に鍵はないが、玄関はロック式になっている。玄関前の道路は坂道カーブで、時間帯によっては母体施設へ出入りする車が頻繁に通る道路となっている。建物の構造上、食堂や居室部分からは玄関周りが見えないため、家族会からは施錠するよう依頼があり施錠している。職員がダイニングにいる時は施錠していない	○	利用者が安心して出かけられるよう、玄関前の道路に一時停止の標識やカーブミラーの設置など、安全面での工夫を望みたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回の消防訓練では、夜間を想定した訓練も行なっている。避難訓練では、消防団や地域の協力を得ながら進めている。今後の防火管理者研修に三名が参加予定である。		具体的できめの細かい訓練を行っている点は評価できる。災害時における備蓄についても母体施設と連携して準備していただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューの汁類やお茶、お茶ゼリーで水分確保を行い、食事摂取表で一人一人の水分摂取量を把握している。水分調整の必要な利用者には500mlのペットボトルに個人名を付け水分摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りやダイニングの壁面は透き通し硝子で出来ており、居間からは道路や小公園が見渡せ、居ながらにして季節を感じることが出来る。建物は自然光を取り入れる設計になっており、広い廊下には各所に椅子の配置があり、居間の椅子配置も工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に使い慣れた小物の持ち込みや、家族が作成した刺繍、額縁、写真などが飾られてあり、落ち着いた雰囲気を醸している。直射日光の入る居室には遮光カーテンを取り入れて、自然光のまぶしさを回避するなどの工夫が見られる。		